

小泉明郎 Meiro Koizumi (こいずみ・めいろう)

1976年生まれ。これまで多数の国内外の国際展や美術館で人間の身体と感情の関係、そして共同体と個人の関係性についての現実と虚構を織り交ぜた大規模映像インスタレーションを発表。世界各地の美術館に作品が収蔵されている。主な国際展として光州ビエンナーレ、シャルジャビエンナーレ、上海ビエンナーレ、あいちトリエンナーレ等に参加。主な個展としては「Projects 99: Meiro Koizumi」(MoMA、ニューヨーク、2013)、「捕われた声は静寂の夢を見る」(アーツ前橋、2015)、「Battlelands」(ペレス美術館、マイアミ、アメリカ合衆国、2018)等を開催。VR演劇「縛られたプロメテウス」(2019年)は、第24回文化庁メディア芸術祭アート部門で大賞を受賞。2021年には国際的なアートプライズであるArtes Mundi Prize(カーディフ、英国)を受賞。

作品所蔵先

テート・ギャラリー(ロンドン)、ニューヨーク近代美術館MOMA(ニューヨーク)、アーツ前橋(前橋)、東京都現代美術館(東京)、カディスト・アート財団(パリ)、ボイマンス・ヴァン・ベニンゲン美術館(ロッテルダム)、アムステルダム市立近代美術館(アムステルダム)、デ・ハレン・ハーレム(オランダ)、クイーンズランド州立美術館(ブリスベン)、M+(香港)、FRACポワトゥー・シャラント(フランス)、国立国際美術館(大阪)、高橋コレクション(東京)、国立近代美術館(東京)、国立台湾美術館(台中)、田口コレクション、石川コレクション、高橋コレクションなど

主な賞歴：

- 2021 アルテス・ムンディ9(英国・カーディフ) ー 大賞
- 2021 第24回文化庁メディア芸術祭、アート部門 大賞
- 2020 タカシマヤ美術賞
- 2013 フューチャー・ジェネレーション・アート賞、ピンチュックアートセンター、ピープルズ賞
- 2012 第15回アジアアートビエンナーレ、バグダッド、大賞
- 2001 ベックス。フューチャー2、学生ビデオ賞 大賞

主な個展

2021

「縛られたプロメテウス」金沢21世紀美術館(VR演劇)

「縛られたプロメテウス」YCAM山口(VR演劇)

2019

「ドリームスケープゴートファック」無人島プロダクション、東京

「フォッグ」 アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム

「未来の死者を弔う」 Buoy、東京

「被写界深度」、マタデロ・マドリード、スペイン

「バトル・ランズ」 ミネアポリス・インスティテュート・オブ・ファイン・アーツ

2018

「バトル・ランズ」 ホワイト・レインボー、ロンドン

「嵐の後の新たなる息吹」 MAC VAL、フランス

「バトル・ランド」 ペレズ・アート・ミュージアム、マイアミ

2017

「夢の儀礼II」 アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム

「帝国は今日も歌う」 ヴァカント、東京

2016

「小泉明郎展」 デ・ハーレン・ハーレム美術館、オランダ

「空気」 無人島プロダクション、東京

2015

「沈黙ならぬ肖像」 MUACメキシコ国立自治大学現代アート美術館、メキシコシティ

「捕われた声は静寂の夢を見る」 アーツ前橋、群馬

2014

「机上の空論」 カディスト・アート財団、パリ

「小泉明郎展」 テストサイト、オースティン、テキサス

「ダブル・プロジェクション」 アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム

2013

「BMW・テート・ライヴ：パフォーマンス・ルーム、小泉明郎」 テートモダン、ロンドン（パフォーマンス）

「プロジェクト・シリーズ99：小泉明郎」 ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク

2012

「美しい国の物語」 ブルゴス銀行現代美術センター(CAB)、ブルゴス、スペイン

「ディフェクト・イン・ヴィジョン」 アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム

「ヒューマン・オペラ」 サン・アート、ホーチミン

2011

「傷ついた英雄、美しい午後」 アートスペース、シドニー

2010

「トータル・エクスタシー」 アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム

「至上の愛」 ギャラリーRAKU、京都造形大学

「トレース」 クレムズ、ベルリン

2009

「コーナー・オブ・ビター・アンド・スイート」 オープンサテライト、ベルビュー、ワシントン

ン州

「僕の声はきっとあなたに届いている」ヘドリー・ギャラリー、シアトル

「MAMプロジェクト009：小泉明郎」森美術館、東京

2008

「小泉明郎展」ニコール・クラッグスブルン・ギャラリー、ニューヨーク

2007

「XXX：トリロジー」ディック・スミス・ギャラリー、ロンドン

2006

「Mの肖像」ジンガー・プレゼンツ、ティルブルフ、オランダ

「小泉明郎展」アネット・ゲリンク・ギャラリー／ザ・ベーカリー、アムステルダム

2005

「小泉明郎展」メアリー・メアリー、グラスゴー

「小泉明郎展」ガラリア・ルイザ・ストリーナ、サンパウロ

2004

「無力にハードコア」ディックスミス・ギャラリー、ロンドン

2003

「ビデオアートスクリーニング東京 vol. 2—A Very Veautiful Woman」theglasshouse、東京

主なグループ展

2023

「新たなる生存者」三影写真芸術センター、北京

「第14回光州ビエンナーレ：天下水より柔軟なるはなし」光州、韓国

2022

「ジャパン、ボディ、パフォーマンス、ライブ」PAC 現代アートパビリオン、ミラノ

「1/12 Don't Follow the Wind: Meiro Koizumi & Non-Visitor Center」福島第一原発周辺の福島帰還困難区域、日本

「地球の回る音を聴く」森美術館、東京

「ポスト・ネチャー」蔚山美術館、韓国

「ブラインド・ルーム」アネット・ゲリンク・ギャラリー、オランダ

2021

「東京と写真」オックスフォード・アシュモリアン美術館、英国

「オブシーン・フェスティバル」ビジュアルステーション2021、ソウル駅、ソウル

「アルテス・ムンディ」カーディフ国立美術館、英国

「王の二つの身体」デカメロン、東京

「11 Stories on Distanced Relationships」国際交流基金、オンラインイン展覧会

2020

「アニメ」台湾国際ビデオアート展、ホンガ美術館、台北

「メルセデスベンツ・アートスコープ」原美術館、東京

「メジャー・ユア・エキジステンス」ルビン美術館、ニューヨーク

「アフターファクト」 STUK アートセンター、ルーベン、ベルギー

2019

「タイム・キュービズム」 光州美術館、韓国

「赤字団」 ロング・マーチ・スペース、北京

「百代の過客」 アートベース百島、広島

「あいちトリエンナーレ2019：情の時代」 愛知

「セレブレーション展」 京都アートセンター、京都

「シャルージャ・ビエンナーレ」、シャルージャ、アラブ首長国連邦

「隠された歴史のお話し」、フィルム美術館、アムステルダム

2018

「アジア・パシフィック・トリエンナーレ」、ブリスベン、オーストラリア

「上海ビエンナーレ」、上海

「交換の視点」 ダイムラー近代美術館、ベルリン

「コレクションより、ビルディング・ロマンス」 豊田市美術館、豊田

「トラベラーズ」 国立国際美術館、大阪

2017

「歴史の再演」 韓国国立近現代美術館、韓国

「アジアビエンナーレ2017」 国立台湾美術館、台湾

「アーティスト・騎士」 ガースビーク城、ベルギー

「アジアの想像」 ナムジュンパイク・アートセンター、ソウル

「斜めから眺める」 ロッテルダム国際フィルムフェスティバル、ロッテルダム

「前橋のアート」 アーツ前橋、前橋

2016

「蜘蛛の糸」 豊田市美術館、愛知

「偉大なるバルコン」 モントリオール・ビエンナーレ、モントリオール、カナダ

「タグチ・アートコレクション——しあわせの相関図」 三菱地所アルティウム、福岡

「劇場は美しい午後の夢を見る——ヤエル・バルタナ、ライアン・ガンダー、小泉明郎」 アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム

「今の世の中はたががはずれている」 シャルージャ美術財団、アラブ首長国連邦

「キセイノセイキ」 東京都現代美術館、東京

2015

「北東アジア横断」 香港アーツセンター、香港

「ジャカルタビエンナーレ」 ジャカルタ、インドネシア

「現実のマニュアル」 デジアークギャラリー、台湾国立美術館、台湾

「Stance or Distance? わたしと世界をつなぐ距離」 熊本市現代美術館、熊本

「inToAsia：TBAアートフェスティバル」（スクリーニング）クイーンズ美術館、ニューヨーク

「Don't follow the wind」東京電力福島第一原子力発電所付近 帰宅困難地域、福島
「境界 – 高山明+小泉明郎展」銀座メゾンエルメス・フォーラム、東京
「もの/モノ」デルメ・シナゴグ現代美術センター、フランス
「ヒロシマを超えて：抑圧されたものの回帰」ジェニア・シュレーバー・ギャラリー、テルアビブ大学ギャラリー、イスラエル
「男を探して」ヴァル・ドウ・マルヌ現代美術館、フランス
「微妙な三角関係」ソウル市美術館、ソウル
「インヴィジブル・エネルギー」セント・ポール・ストリート・ギャラリー、オークランド、ニュージーランド

2014

「アップ・クロス・アンド・パーソナル」デ・ハレン・ハーレム、オランダ
「エモーティーズ」ヘルモント市美術館、オランダ
「イマジニアリング」岡山アート・プロジェクト、岡山
「アムステルダム・ドローイング・エクステンディッド」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム
「すすきの夜のトリエンナーレ」札幌
「テン・ミリオン・ルームス・オヴ・ヤーニング」パラサイト芸術空間、香港
「深セン（ツチヘンにカワ）ビエンナーレ」深セン、中国
「アフェクト」クンストパレス・エアランゲン、エアランゲン、ドイツ
「幸福はぼくを見つけてくれるかな？」東京オペラシティー・アートギャラリー、東京
「MOTコレクション特別企画—クロニクル1995—」東京都現代美術館、東京

2013

「カゼイロノハナ（未来への対話）」アーツ前橋、群馬
「ナウ・ジャパン」KAdEクンストハル・アマースフォート、オランダ
「もしあなたが望むなら、それは夢ではない」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム
「アンノウ・フォーシズ」Tophane-i Amireギャラリー、イスタンブール
「日産アートアワード」BankART 1929、横浜
「六本木クロッシング」森美術館、東京
「未完の風景」国際交流基金、Bevilacqua La Masa財団、ヴェニス
「フューチャー・ジェネレーション・アート・プライズ@ヴェニス2013」パラッツォ・コンタリニ・ポリニャック、ヴェニス
「シェイム」エスペリアル・カハ・マドリッド財団、マドリッド
「アジェンダ・サンティアゴ@CAB」ブルゴス銀行現代美術センター(CAB)、ブルゴス、スペイン

「ムーヴ・オン・アジア——新たなるアート・ネットワークに向けて 2004-2013」 シティー・ギャラリー・ウェリントン、ウェリントン、ニュージーランド

「ムーヴ・オン・アジア——アジアのビデオアート 2002-2012」 ZKM、カールスルーエ、ドイツ

2012

「第15回アジアン・アート・ビエンナーレ・バンガラディシュ2012」 ダッカ

「アブストラと12人の芸術家」 大同倉庫、京都

「フューチャー・ジェネレーション・アート・プライズ」 ピンチュクアートセンター、キエフ

「上海ビエンナーレ」 上海当代芸術博物館、上海

「テグ・フォト・ビエンナーレ2012——Dance on a Thin Line」 テグ、韓国

「第5回メディアアート・国際ビエンナーレ——エクスペリメンタ、スピークス・トゥ・ミー」メルボルン

「Re: AIR」 アーカス、茨城

「常識に尻をむけろ。」 代官山アートストリート、東京

「エコー——日本の若手アーティスト展」 ベルリン

「ムーヴ・オン・アジア2012」 オルタナティヴ・スペース・ループ、ソウル

「Identity VIII」 日動コンテンポラリーアート、東京

「リキッド・プロジェクト」 アルムノス47財団、メキシコシティ

「エモショナル・ブラックメール」 キッチン・ウォーター・アート・ギャラリー、カナダ

「トーキョー・ストーリー2011」 トーキョーワンダーサイト、東京

「Omnilogue: Journey to the West」 国際交流基金、ラリット・カラ・アカデミー、ニューデリー

2011

「インパーソネイト」 ミロ財団、マヨルカ、スペイン (パフォーマンス)

「OKビデオフェスティバル」 ジャカルタ

「アフター・ヒューマニズム」 ギャラリー・ループ、ソウル

「エモショナル・ブラックメール」 サザン・アルバータ・アート・ギャラリー、カナダ

「Invisible Memories」 原美術館、東京

「スーパー8」 クリストファー・グライムス・ギャラリー、ロサンゼルス

「MOTコレクション——サイレント・ナレーター、それぞれの物語」 東京都現代美術館、東京

「風景の裏側」 前橋市美術館プレイベント、前橋

2010

「リバープールビエンナーレ」 FACT、リバプール
「メディアシティ・ソウル2010」 ソウル市美術館、韓国
「イエローゲイト」 広州美術館サングロック館、広州、韓国
「ラストワーズ2」 4Aアジア現代美術センター、シドニー
「第一回愛知トリエンナーレ」 愛知
「レゾナンス」 サントリーミュージアム天保山、大阪

2009

「日常への一撃」 オセイジ・ギャラリー、香港
「ジャパン・ビデオ・ウィンドウ」 ギャラリー・デュプレックス、サラエボ、ボスニア
「リ：メンバリング——日本の次世代」 オルタナティブ・スペース・ループ／斗山アート・センター、ソウル
「ビバーク」 ヴォクス・ポピュライ、フィラデルフィア、ペンシルバニア州

2008

「人生の物語」 ギャラリーTPW、トロント、カナダ
「人工的自然」 上海現代美術館、上海
「第3回南京トリエンナーレ——リフレクティブ・アジア」 南京博物院、南京
「秘密同盟 (B.O.S.)」 ニュルンベルク・クンストブンカー、ドイツ
「リハビリ——ベン・ラルア&ディディエ・パスカル、小泉明郎とクリスチャン・ヤンコウスキー」 アムステルダム市立近代美術館プロジェクトスペース・ビューロー (SMBA)、アムステルダム
「ペルソナ・ノン・グラータ」 ワン・イン・ジ・アザー、ロンドン
「エイジアン・ホットショッツ・ベルリン」 ベルリン、ドイツ (フェスティバル)
「埋まらない距離——小泉明郎x増本泰斗」 CAMPオットーマインツハイムギャラリー、東京

2007

「君がこれに興味を持つか否かの問題ではなく、どちらかという君が文化的創造の新条件下で更に興味深い人間になれるか否かの問題だ」 フライ美術館、シアトル
「アート・サマー・ユニヴァーシティ」 テートモダン、ロンドン (スクリーニング・イベント)
「要するに、激しい格闘」 パンチ・ギャラリー、シアトル
「ジャパニーズ・ビデオ・アート・スクリーニング」 ヘイン・オンスタッド・クンストセンター、ノルウェー (スクリーニング)
「惰性の発見」 KW14、スヘルトヘンボス、オランダ

2006

「戦争と自然」 ヴィルジル・ドウ・ヴォルデル・ギャラリー、ニューヨーク
「仕事」 ファイフハウゼン芸術要塞財団現代美術センター、オランダ
「フィルムプロジェクト」 ギャラリー・サイン、フローニンゲン、オランダ

「αMプロジェクトvol.8:セクシー・ポリティクス」アスク・アートスペースキムラ、東京
「ヒスコックス芸術賞」アルティ・エト・アミシィティエ、アムステルダム

2005

「ホットスポット」エスル財団コレクション、ウィーン
「ビデオディクショナリー」ラ・カーサ・エンセンディーダ、マドリッド
「移転したアイデンティティ：パート1——露出過多」パブリック・スペース・ウィズ・ア・
ルーフ、アムステルダム

2004

「エピソード」清州アート・センター・ギャラリー、韓国
「無根拠／無結論」ガレリア・モリアルティ、マドリッド
「アウト・ザ・ウィンドー——Spaces of Distraction」国際交流基金フォーラム、東京／プロ
ジェクトスペース・ジップ、ソウル
「メディアリーナー——日本の現代美術」ゴヴェット・ブリュースター・アート・ギャラリー、
ニュー・プリマス、ニュージーランド
「オールド・ハビッツ・ダイ・ハード」ノーウィッチ・ギャラリー、英国

2003

「グループ対ショウ」ディックスミス・ギャラリー、ロンドン
「お願いだから泣かせないで」エミリー・ツィンダー・ギャラリー、ロンドン

2002

「ニュー・コンテンポラリーズ2002」スタティック、リバプール／バービカン・センター、ロ
ンドン
「そうじゃないから」Mストリート3300番地、ワシントンDC

2001

「ベックス・フューチャーズ2（学生フィルム・ビデオ賞）」インスティテュート・オヴ・コ
ンテンポラリー・アーツ（ICA）、ロンドン